

■地域間幹線系統に接続する町内交通の検討

- ・通学時の交通手段は、自宅から徒歩や自転車で駅及びバス停まで移動するパターンと、自宅から送迎によって駅及びバス停まで移動するパターンで、大きく2分されている。(P10)
- ・また、利用されている駅やバス停は、各町で概ね固定化されていることが想定される。(P11)
- ・積雪期には、徒歩・自転車で駅及びバス停まで移動している一部の学生において、自宅からの送迎に頼ることが想定されるため、送迎を実施している家庭の負担軽減に向け、学生の居住状況を踏まえた地域間幹線系統まで交通手段の確保を、各町で検討していくことが重要である。

交通手段	妹背牛町 (n=37)	秩父別町 (n=19)	北竜町 (n=26)	沼田町 (n=37)
徒歩・自転車	43.2%	68.4%	50.0%	45.9%
自動車(送迎)	24.3%	47.4%	34.6%	37.8%
JR(留萌方面)	2.7%	73.7%	0.0%	83.8%
JR(旭川方面)	21.6%	15.8%	3.8%	21.6%
JR(滝川方面)	45.9%	42.1%	7.7%	54.1%
高速るもい号	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%
留萌旭川線	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
北竜線	24.3%	0.0%	61.5%	0.0%
深滝線	24.3%	0.0%	23.1%	0.0%
沼田線	0.0%	5.3%	0.0%	8.1%
滝川北竜線	8.1%	5.3%	30.8%	2.7%
沼田町営バス	0.0%	10.5%	0.0%	2.7%
乗合タクシー	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
タクシー	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%

50%以上の項目
 25%以上の項目

■公共交通の運行状況によらず、進学先が選択できる公共交通網の維持・形成

- ・進学先を選択する際に、約半数は公共交通の運行状況を意識して選択している。

(P18)

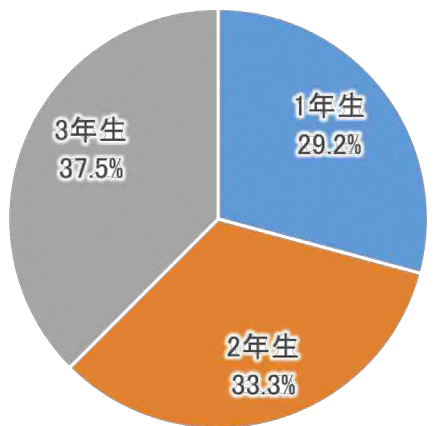
- ・運行状況については、「自宅から高校まで公共交通で通学」が可能か、「部活動後の帰宅手段」などを重要視している。
- ・近隣自治体の高校までの公共交通手段の確保は、今後の子育て世代が各町で住み続けられる要素として重要であることが想定されるため、現状の路線形態を維持しながら、通学における公共交通課題の解決及び利便性の向上に資する検討を継続して実施する必要がある。

意識した内容	妹背牛町 (n=28)	秩父別町 (n=17)	北竜町 (n=22)	沼田町 (n=28)
運行便数が少なくて利用しづらい	67.9%	88.2%	90.9%	60.7%
学校祭(準備期間を含む)や始業・就業式、定期試験などのイベント時の帰宅にちょうど良い便がない	35.7%	52.9%	63.6%	39.3%
部活動や塾に通うと帰宅できる公共交通がない	25.0%	23.5%	18.2%	3.6%
バスの遅れなどが分からなく、バス停で待つことが多い	14.3%	0.0%	18.2%	0.0%
バス車両が混雑しており、乗ることができないことがある	14.3%	5.9%	0.0%	0.0%
公共交通の運行状況を知らない	0.0%	0.0%	4.5%	7.1%
乗車時間が長い	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	17.6%	0.0%	7.1%

■ 50%以上の項目 ■ 25%以上の項目

問1 学年 (n=120)

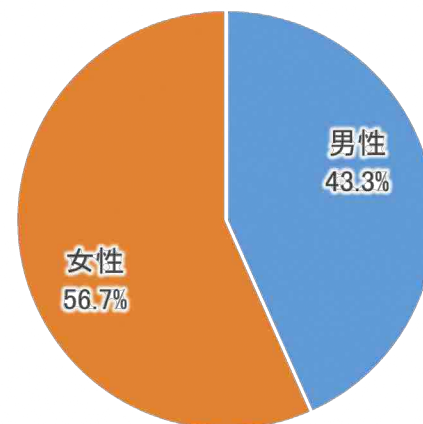
☑学年の回答状況は概ね均等。



(n=120)

問2 性別 (n=120)

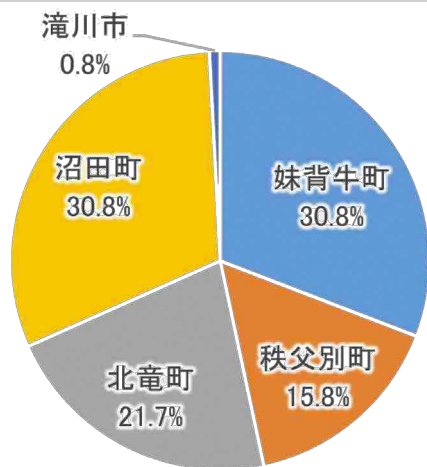
☑女性からの回答が若干多い状況。



(n=120)

問3 お住まいの市町村 (n=120)

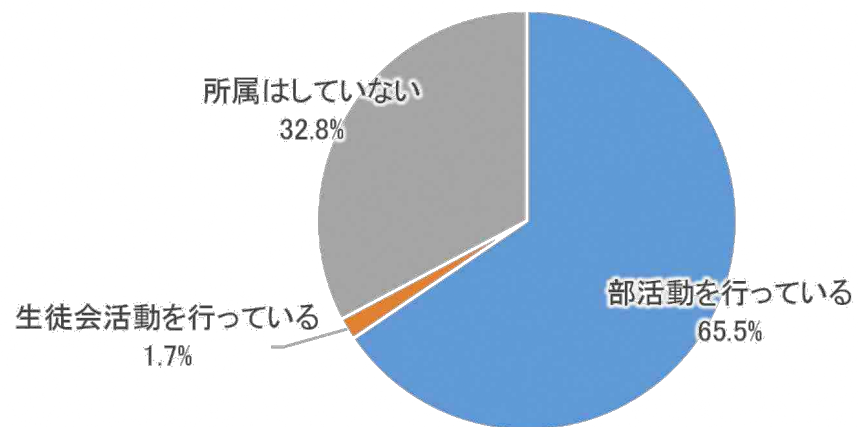
☑妹背牛町、沼田町からの回答が多い状況。



(n=120)

問4 部活動等への所属 (n=120)

☑部活動を行っている生徒からの回答が多い状況。



(n=120)